

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況（連結）

平成 15 年 8 月 8 日

上場会社名 協和発酵工業株式会社

上場取引所 東 大 名 福 札

コード番号 4151

本社所在都道府県

(URL <http://www.kyowa.co.jp/>)

東京都

代表者 役職名 取締役社長

氏名 松田 譲

問合せ先責任者 役職名 コーポレートコミュニケーション室長

氏名 花井哲郎

TEL (03) 3282 - 0009

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況

: 無

: 無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 6 月 30 日）

(1) 連結経営成績の進捗状況

(百万円未満切捨て)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 1 四半期	87,738	-	5,479	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	359,284		16,088	

(注) 連結売上高は、当該四半期までの累計値であります。

パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示しております。

前年同四半期については、四半期業績の開示を行っていないため記載を省略しております。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期におけるわが国経済は、企業収益や株価に一部持ち直しの兆しが見られるものの、依然として雇用環境や個人消費の低迷等厳しい状況が続きました。

このような環境下において、当社グループは積極的な営業活動を展開し売上高は 877 億円、営業利益は 54 億円となりました。

医薬セグメントの売上高は、抗アレルギー剤「アレロック」、持続性がん性疼痛治療剤「デュロテップパッチ」、経口抗真菌剤「イトリゾール」等が順調に推移しましたが、競争激化により厳しい状況が続いています。営業利益は、ほぼ当初計画通りに推移しております。バイオケミカルセグメントの売上高は、医薬・食品・工業用アミノ酸等が伸長し、営業利益でも計画を上回るスタートとなりました。化学品セグメントは、主要原料調達先のプラントトラブルにより販売数量が計画を下回りましたが、機能性製品群の伸長や製品価格の改善効果などにより、売上高、営業利益ともに計画を上回りました。食品セグメントの売上高は、健康食品分野や加工食品分野は堅調に推移しましたが、個人消費の低迷や低価格化志向の影響を受け調味料分野では厳しい状況が続いています。営業利益はほぼ計画通りに推移しております。

(ご参考)

セグメント情報

(百万円未満切捨て)

	医薬	バイオケミカル	化学品	食品	その他	計	消去又は全社	連結
売上高	34,799	17,120	16,022	14,400	15,005	97,349	(9,610)	87,738
営業利益	1,920	2,123	697	379	414	5,536	(56)	5,479

(注) 前連結会計年度において酒類事業を譲渡したことに伴い、当第 1 四半期より従来の酒類食品セグメントの名称を食品セグメントに変更しております。

個別経営成績の進捗状況

(百万円未満切捨て)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 1 四半期	70,418	-	3,513	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	294,277		12,214	

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当する事象はありません。

3 . 平成 16 年 3 月期の連結業績予想 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日)

平成 15 年 5 月 14 日発表の業績予想と変更ありません。

[業績予想に関する定性的情報等]

第 2 四半期以降につきましては、依然として景気の先行きに対する不透明感は続くものと思われ、当社グループを取り巻く環境は一層厳しいものが予想されますが、当第 1 四半期における業績は概ね計画通りに推移しております。

なお、当社は 7 月 29 日の取締役会において 2003 年 7 月 9 日付で欧州第一審裁判所が下した判決を受け入れ、2000 年 6 月 7 日付で欧州委員会が当社および子会社協和ヨーロッパに課したリジン (飼料用アミノ酸) カルテルにかかる過料 (1,320 万ユーロ) の支払いに応ずることを決定いたしました。当社は、平成 15 年 3 月期貸借対照表 (連結および個別) において、上記過料のうち 112 万ユーロを未払金として計上しており、欧州委員会への過料支払額ならびに訴訟関連費用などの合計額と当社未払金計上額との差額を、平成 16 年 3 月期中間期において特別損失として計上する予定であります。

また、当社は同日の取締役会において、当社メキシコ子会社 FERMENTACIONES MEXICANAS, S.A. DE C.V. の解散を決定いたしました。当社は、当該子会社の業績動向に鑑み、過年度の決算 (連結および個別) において、当該子会社の株式評価損等を海外事業等構造改革損失として特別損失に計上しておりますが、今後清算の過程で追加的に費用が発生する可能性があります。

平成 15 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 16 年 3 月期業績予想 (連結および個別) につきましては、昨今の不透明な経営環境において上記以外の不確定な要因も多く、今後見通しが明らかになった時点で、修正の必要が生じた場合にはあらためてお知らせいたします。

上記の業績予想につきましては、現時点で入手された情報に基づいて判断されたものであり、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる場合がありうることをご承知おきください。

以 上